

金美德：アジアの問題を解決する

オムニバスによる問題解決学総論の B クラスの第 10 回目として、金教授がご登壇。「アジアの問題を解決する」というテーマをもとに、学生がアジアに飛び込む意義と必要性に気づくきっかけとしようというのが、今回の講義の目的とのこと。以下、講義のポイントをご紹介します。

<イントロダクション>

金先生曰く「問題解決とは、付加価値を創造することだ。この付加価値を創造するからこそ、ビジネスでは経済的対価を獲得できる。また、問題が解決出来たかどうかは、自分が決めるのではなく、相手が決めることだ。」とのこと。つまり、解くべき問題は何かをしっかりと見極め、それを解くことにアプローチしなければならないということだ。そして、今、重要な問題は、北東アジアでの政経矛盾（アジア・パラドックス）。このパラドックスを解くことがビジネスに必要であり、若者が真剣に向き合うべき問題だ、という。

この点を踏まえ、北東アジアについて解説が進む。

<アジアへ飛び込む勇気が必要だ>

アジアの問題を発見し、それを産業的に解決する方法を考える。まさしく、これこそがアジアビジネスである。実際、今や日本企業は、アジア市場に進出（生産、販売、研究開発、情報拠点）するか、アジアのヒト・モノ・カネ・情報を日本に取り込まずに、生き残れない時代になってきている。換言すれば、「ビジネス＝アジア」「人生＝アジア」の時代だと言っても過言ではない、とのこと。

一方、同時に金先生が強調されるのは、「不条理な社会・国際問題を解決し、時代的使命を果たすことによるのみ、持続可能な成長経営モデルとなり得る」とのこと。

したがって、これからの時代に、活躍するビジネスパーソンになるには、アジアなど新興市場や不条理な社会問題に踏み込む勇気を育み、アジア・ユーラシアで活躍する国際人材や時代ニーズの産業的解決者、いわゆる「アジア・グローバル人材ビジネス」となる必要があるということだ。

これらを踏まえ、今日は「アジアに飛び込んでいく勇気」を持つきっかけを皆さんに気づいてもらうことがこの講義の目的とのこと。以下、アジアの現状や課題を見てみよう。

<アジアの現状：北東アジアへの着目>

まず、アジアには何カ国あるかからはじまる。アジアには 48 カ国ある。ユーラシア大陸のヨーロッパを除く部分が、(広義の意味では) アジアである。世界人口の約 60% (40 億人) がアジア人ということになる。

これだけ広大なアジアの経済を牽引しているのが、日本、中国、韓国の三カ国で狭義な意味での北東アジアということになる(広義な意味での北東アジアは、日本、中国、韓国、台湾、ロシア、モンゴル、北朝鮮の 7 カ国)。これら 7 カ国は、世界の経済(GDP、貿易額)の 2 割を占めるようになっており、そのプレゼンスの大きさが紹介された。

もちろん、この北東アジアは一つの経済圏とだけみてはならない。この中には、いくつもの経済圏がある。たとえば、環渤海経済圏などがその代表だ。これらには今まで偏狭といわれた地区が含まれる。こういう地域までもが、経済的にホットになり、世界の企業が進出しているのだ。もはや、これらの地区の経済を無視した世界経済を考えることはあり得ないということだ。

ここで一つ意識しなければならないことがある。こういう地域や経済圏の存在を知れば、もはや国単体レベルでのみ考えてはいけなことがわかるだろう。だからこそ、視野をグローバルにしなければならない。グローバルな視野とは、持っておいた方がよいという話ではなく、もはや持たなければならない視野ということは明らかだろう。

<北東アジアの問題・課題>

つづいて、北東アジア(および東アジア)が抱える様々な課題について解説がすすむ。北東アジア(および東アジア)について大別すれば、以下の 5 つに分類できるとのこと。

1. 東アジアの経済・経営
2. 東アジア歴史・政治・社会
3. 北東アジア域内二国間関係
4. 東アジア域内経済圏の連携
5. 北東アジアと域外経済圏との連携

これらの枠組みでいろいろな話がなされた。これによりアジアの現状や問題を理解すると同時に、解決すべき(各自がアプローチすべき)問題を考えようということだ。

一見すると、これらは解決不可能に見えるものもあるかもしれない。ただし、そういう問題でも解決しなければならないものはおおいだろう。たとえば、北東アジアが抱える問

題で解決が難しいといわれている問題の一例として、領土問題についても話が及んだ。

ここでのポイントは、問題とその解決という視点で領土問題を眺めるということだ。それを考えるきっかけとして、北東アジアでの様々な領土問題について解説の後、世界が今まで領土問題を解決してきた方法7つを示し、こういった難しい問題ですら解決策があることが示された。

★領土問題を解決した7つの方法

- ① 島を岩と認めて領土問題は存在しないとする
- ② 分割して領有する
- ③ 中立地帯として解釈する
- ④ 領有権は認めないが統治権は認める
- ⑤ 譲渡する
- ⑥ 相手の領有権を認める
- ⑦ 国際司法裁判所などの仲裁によって解決されている（16カ所解決された）

もちろん、これらは方法ではあるが、これらの方法が上手く機能するかは、メソッドの話ではない。それをもとに解決を試みる人と人との信頼や、それぞれのリーダーシップが不可欠なのは間違いない。問題解決は、方法だけではなく、それを解決する人のパーソナリティも重要なのだ。

・本日の講義レポート

受講者には、先ほどの5つの課題（実際のプリントには、5つに分類された課題の中に具体的な課題がまとめられている）の中から、課題を選び、どう解決するかについてのアイデアをまとめるということが、レポート課題とされた。

<まとめ>

最後に、あらためて、「アジア・グローバルビジネス人材とは何か」についてまとめがなされた。アジア・グローバル人材は、概念規定されたものではないが、以下のような能力や見識が必要と考えられるとのことだ。

1. アジア初の国際情報の収集力・分析力・発進力である。言い換えれば、アジアネットワークを駆使して、アジア情報を収集・分析し、アジア戦略を練ったり、アジアビジネスを開発・提案することだ。

2. アジアの不条理な問題に踏み込む勇気を持って、アジアが抱える共通の課題を探し出し、これらを産業的に解決することだ。
3. 欧米観とアジア観とのバランスが取れた世界観と、東アジア近現代史を中心とした歴史観である。言い換えれば、時代認識と言えるだろう。
4. アジア。ユーラシアダイナミズム時代を創造する志と、地政学的知である。

以上をまとめて一言で表現すれば、アジア益を実現できる人材とも言えよう。また、アジア益と同時に国益、世界性も実現できれば、より理想的であると、まとめられた。

60分の短い時間にも関わらず、アジアのダイナミズムとそこが問題解決として魅力的な分野であること。そしてそこは若者が活躍できる一つの大きなフィールドであることが熱意と共に語られた。金先生の熱意と濃い講義内容が、多くの学生の真剣に聞き入る姿を引き起こした充実した60分でした。